

ケーススタディ地区の取組概要

地区名 神石高原町

局署名 近畿中国局／広島署・広島北部署

地域課題 小規模分散型の森林の集約団地化による効率的な木材生産や森林整備、再造林の低コスト化

令和元年度実績

- 取組内容
- ① 森林共同施業団地の取組
関係者間で現地調査を実施し、今後の方針等を以下のように確認
 - ・ 民有林・国有林の既存作業道の連結に向け事業計画を調整
 - ・ 循環的な路網の再整備を検討
 - ・ 事業計画の調整など迅速かつ緊密な民国連携に資する調整窓口を設置
 - ② 知識や技術の普及
 - ・ 防護柵設置時の注意点、設置後のメンテナンス等の施工技術を普及するための現地検討会を開催

現地検討会	2回(民国連携(国5名、民5名)、鳥獣被害対策(国3名、民13名))
勉強会	-
会議	-
打合せ	2回(延べ国5名、民14名)

今後の予定

- ① 新たな森林共同施業団地の設定
 - ・ 調整窓口を活用した機動的な施業計画の調整と、調整に基づく具体的な団地設定の手続き
 - ・ 路網の連携や協調した施業が期待できる事業地を洗い出し、関係者と合意形成を図りながら更なる団地設定に向けて検討
- ② 知識や技術の普及
 - ・ 下刈り省略など低コスト造林技術のとりまとめと、民有林への普及



シカ被害防護柵の施工方法等の現地検討会(R元.10) 新たな森林共同施業団地候補地の現地調査(R2.2)

＜ケーススタディ地区の取組概要＞

小規模分散型の森林の集約団地化による効率的な木材生産や森林整備、再造林の低コスト化

＜地区名＞

広島県 神石高原町地区

＜局・署名＞

近畿中国森林管理局・広島北部森林管理署、
広島森林管理署

＜目的と背景＞

当地域の民有林の特徴として、①人工林の所有形態が小規模零細であること、②過疎・高齢化による担い手不足、③木材価格の低迷など林業の採算性の悪化による森林所有者の林業意欲の低下により、手入れ不足の森林が増加しています。

そのため、小規模分散型の森林を集約・団地化して、路網整備と高性能林業機械を組み合わせた作業システムの導入により、効率的な木材生産、森林整備の推進を図る必要があります。

さらには、皆伐後の再造林について、木材収入に対する造林コストの掛かり増しなどの理由から未実施の箇所が多く、持続可能な森林経営の実現には、再造林にかかるコスト低減を図ることが喫緊の課題と言えます。



＜連携体制＞

ケーススタディ地区支援チーム

広島県、広島北部森林管理署、広島森林管理署、
神石高原町、神石郡森林組合

＜令和元年度の取組概要＞

【関係者との打ち合わせ（2回開催）】

- ケーススタディ地区に係る情報共有

実施年月日：令和元年6月13日

場 所：三和協働支援センター

出席者：広島県、神石高原町、神石郡森林組合 外

実施年月日：令和元年12月17日

場 所：神石高原町役場

出席者：広島県、神石高原町、神石郡森林組合 外

【二ホンジカ対策に関する現地検討会】

- 次期市町村森林整備計画の策定を進めるに当たり、鳥獣被害対策である防護柵等の施工方法や課題を確認

実施年月日：令和元年10月7日

場 所：鉦原山（たたらばらやま）国有林（庄原市）外

出席者：広島県、神石高原町、神石郡森林組合

【森林共同施業団地に関する現地検討会】

- 森林共同施業団地候補地域内の民有林・国有林の現況、施業履歴、今後の計画の共有

実施年月日：令和2年2月27日

場 所：神石高原町相渡（あいど）・古川（ふるかわ）地区

出席者：広島県、神石高原町、神石郡森林組合

取組実績と今後の予定

広島県等と連携したケーススタディ地区支援チームにより、森林技術等の普及のために、現地検討会を開催して、情報共有や指導・助言等様々な支援を行っています。

ケーススタディ地区の取組

● 第2回ケーススタディ地区の打合せを開催

令和元年12月17日、広島県、神石高原町、神石郡森林組合、広島北部森林管理署の関係者5名が出席し、三和協働支援センターの会議室（神石高原町）において、「第2回ケーススタディ地区打合せ」を開催しました。

当日は、

- 平成30年度に森林共同施業団地化に向け取組を開始した「新免（しんめん）地区」の進捗状況
- 新たな森林共同施業団地候補地で開催する現地検討会の情報
- 次期市町村森林整備計画の作成を進めるに当たり、鳥獣防止森林区域で記載が必要となるシカの生態・生息状況や、防護柵等の施工方法や課題の情報提供等を行い関係者間で共有しました。

広島北部署は、今後も同地区の取組を積極的に進めていきます。

● 新たな「森林共同施業団地」候補地の現地検討会の開催

新たな「森林共同施業団地」の設定に向け、令和2年2月27日に、広島県、神石高原町及び神石郡森林組合の担当者の方々と現地検討会を行いました。

当日は、候補地域内の国有林、県営林及び民有林の森林資源の現況、これまでの施業履歴、今後の施業計画並びに路網の配置状況を共有するとともに、今後の施業に係る課題や「森林共同施業団地」の設定に伴い必要となる事業等を話し合いました。

参加者からは、民有林・国有林のそれぞれで開設している既存の作業道を連結させ、循環的な路網に再整備していくこと、各種事業計画の情報共有を更に緊密に図っていくこと、民国連携の実現に向けよりスピーディな調整を図ることができる枠組みが必要であること等の意見がありました。

今回の現地調査を踏まえ、新たな「森林共同施業団地」の設定に向け、引き続き関係者と調整を図っていきます。



<今後の取り組み>

- 新たな森林共同施業団地の設定
- 低コスト造林技術のとりまとめと民有林への普及 外